

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393600198		
法人名	社会福祉法人 サン・ビジョン		
事業所名	グループホーム ジョイフル江南		
所在地	愛知県江南市河野町五十間24番地		
自己評価作成日	令和3年12月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2393600198-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2393600198-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中川区四女子町1-59-1-902		
訪問調査日	令和3年12月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、利用者様と共に生活しながら自立支援を行っています。利用者様が穏やかに暮らせるよう、ご家族と職員が協力しながら支援しています。また、職員がレベルアップや資格取得に取り組むための教育や勤務調整に力を入れています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は高齢者の施設を始めとした同一法人の複合施設が立ち並ぶ中にあり、開設して21年になる落ち着いた平屋作りの建物である。残存能力を生かしながら出来ることの継続、当たり前の暮らしの継続の為に支援を目標とし、職員全員が勉強会・資格取得・同法人事業所との交換研修などを積極的に取り入れスキルアップに努力している。職員と利用者がゆったりと過ごす日々の中で何気ない「つぶやき」を事業所独自書式に書き止めて、常時情報を共有しケアプラン作成へ反映させている。又、利用者や家族からの要求や意見などを柔軟に取り入れ、施設を感じさせない暖かくゆっくりとした時間が流れているグループホームである

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・自由・尊厳・歓びを家庭的な雰囲気の中で営めるよう自立支援を行い共に学び合っていきます。」という施設理念を掲げ、個々のこだわりを尊重している。毎朝、申し送り時に理念の唱和を行い周知に努めている。	理念を毎日唱和して確認しあっている。また、年度の始めには理事長から理念についての講話があり、職員が感じたことを書いて提出し、管理者が個人別に理解度を把握して指導する取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で今年からは自粛しているが、毎年の恒例として近隣小学校やボランティアと定期的に交流する機会を設けている。	以前はお祭り、運動会、地域感謝祭等多数の地域とのつきあいの機会があった。また、地域の障がい者施設と協力して祭りを企画していた。現在はコロナ禍で散歩の時に地域の方と挨拶する程度である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設周辺のゴミ拾いや清掃活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に参加を促し、事故対策や行事・活動内容へのご意見を伺うとともにサービス向上につなげている。	「書面開催」となっており、参加者への情報提供として写真、コメントなどで工夫を行っている。家族や地域包括から以前のように意見が得られないが、出てきた意見には真摯に対応してサービス向上に繋げている。	意見を出やすくするために情報の提供内容・方法について更なる検討を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や地域包括職員に運営推進会議に参加して頂き意見交換を行っている。	江南市の基幹的な福祉法人の事業所であり市とは良好な関係にある。市の「ふれあい祭り」の企画に参画したり、市が主催する各種協議会・連絡会等に参加し協力関係を築いている。またワクチン接種についても市に相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間を通して身体拘束廃止勉強会を行い、身体拘束をしないケアの実践につなげている。	身体拘束等の適正化の指針を定め、身体拘束適正化対策委員会を設置している。また、安全対策担当者の研修を受けた職員が身体拘束廃止のための施設内の研修や職員の指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止勉強会を開催すると共に、各職員が振り返りの機会を持つ事で虐待に関する指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象利用者様の後見人と連携し、必要な支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語を使わずに説明したり、入居後も質問や希望要望を聞き取る機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の満足度調査を実施しており、ご家族からの提案や要望について可能な限り対応している。	家族・利用者に対して年2回満足度アンケートを実施している。また、職員は利用者や家族の提案・意見を「つぶやきシート」に記録し共有している。これらの結果を毎月の会議で話し合っケア向上に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回の施設内会議にて職員からの提案や意見を吸い上げ、業務改善・ケア向上につなげている。	年2回職員の満足度調査を行ったり、施設内のグループホーム会議で話し合ったりして職員意見を聞きとり運営に反映させている。具体的には休憩室のソファの置き方の改善やケアの手順書作成に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法律その他の基準に従い業務改善に取り組むことで、業務時間内で働けるよう努めている。また、資格取得しやすいよう勤務調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員が目標を持ち、実現に向けて取り組めるシステムが法人で確立されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江南市が開催している、年1回、江南市内の他グループホームと意見交換できる機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ごとに担当職員を配置しており、関わる時間を増やすよう努めている。つぶやき拾いを実践しており、可能な限り対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後のカンファレンスや面会時にコミュニケーションを心がけ、言いやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントやグループホーム利用前のサービス担当者からも情報を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除など家事を通じて協働することにより、信頼関係の構築を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に医療機関への受診をお願いし、本人とのつながりを保つ支援をしている。コロナ禍においては、窓越し面会を実施し、関係が途切れないように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、現在は自粛しているが、入居前に利用していた美容院や商店の利用を支援している。	コロナ禍で馴染みの人や場との交流は自粛しており家族が通院や衣替えのために訪れる程度となっている。利用者が暑中見舞いや年賀状を家族に出すのを手助けし喜ばれている。	利用者の生活歴や入居前の付きあい等の記録を活用し、利用者が家族以外との関係を継続できるような支援も望みたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩・談話やレクリエーションなどで、相互理解の場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム単体では退去後の面談・相談は行っていないが、老健や特養など法人全体でサポートする体制がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に、会議の場で検討している。	主に居室担当が利用者の意見・意向を聞いてグループホーム会議の場で実現を検討している。また「ひもときシート」を活用し、利用者の想いを理解する取り組みも行っている。思いを把握しにくい利用者については態度や家族から聞くことで判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前利用前情報や生活歴などの情報をご家族から入手している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後のアセスメントから現状を把握し、ケアプランに取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当介護職員とケアマネでケア内容の評価を行っている。また、プランに変更が発生した場合はご家族に情報提供し、了承を得ている。	3ヶ月ごとにモニタリング結果に基づき計画の評価を行い、家族の意見を取り入れて計画の見直しをしている。計画を変更する場合は家族に情報を提供して了承を得て職員に周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	PCで記録管理を行い、情報の共有に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族と日頃からコミュニケーションを図り希望・要望の把握と対応に努めている。事業所内で対応出来ない事案について、近隣の同法人施設に協力を求めたり、ご家族と話し合うなど取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦の中、現在は自粛しているが、行きつけの喫茶店や商店など希望する場所などに外出支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態観察をこまめに行い、体調不良時は速やかに医療機関を受診できるよう、ご家族に協力の依頼と情報提供している。	かかりつけ医での受診は家族の協力を得て行っている。利用者の施設での生活状況・健康状態等を書面で家族に渡し、受信結果を家族から聞き取り職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時には、隣接する特養の看護師と協力体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーと連絡を取り合い状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の中で、重度化に関する説明と同意書を取っている。重度化の場合、ご家族の希望を聞きながら住み替えなど同法人の特養や老健と協力体制が出来ている。	入居時に「重度化の指針」で方針を説明し納得して同意書に署名をもらっている。重度化した時には改めて説明するとともに医療関係者も参加する担当者会議で話し合い家族等の意向を確認している。ほとんどの利用者は同一法人の特養・老健に移っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、適切に対応できるようマニュアルを整備し、いつでも閲覧できるよう事務室内に設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、利用者様も参加している。その他、年1回エリア合同の訓練にも参加している。	昼間と夜間を想定した避難訓練を行っている。法人施設が合同で消防から「はしご車」が出動する本格的な訓練も実施している。区長が元消防団員ということもあり、訓練に参加する等、地域との関係は良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にとって分かりやすい言葉かけを行い、排泄等の声掛けの際は他利用者様に気づかれないような配慮に努めている。	法人は全職員に権利擁護の研修を行い、利用者の尊重に取り組んでいる。施設ではトイレへの声掛け時に配慮する、利用者を苗字にさん付けで呼ぶ、申し送り時には利用者をイニシャルで表現する等、プライバシーの尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定ができるように選択肢のある声掛けに努めている。就寝時間や習慣など、一人ひとりのこだわりや好みを職員が理解し供給している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重しながら、運動やアクティビティにお誘いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重しながら、季節や気候にあった服装ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際は利用者様の希望を聞きながら立てている。食事作りや食器洗い・片付け等得意な所は行って頂き、難しい所・不得意な所は支援を行っている。	自発的に食事の準備・片づけをする人はいるが、一部の人に偏らないように声掛けして利用者皆に頼んでいる。好みを聞いて具に入れるとか、誕生日、クリスマス、正月などには行事食を提供するとか、出前を取るとかして楽しんで食事ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	グループホーム内で立てた献立を、特養の管理栄養士に確認・助言してもらい、栄養バランス等のアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は歯磨きやうがいを行って頂いている。声掛けで難しい方には見守りや付き添いを行っている。義歯の不具合等あれば歯科受診の相談をご家族に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行くタイミングや入浴時の下着の確認等行っている。トイレの声掛けや付き添い、その方に合った下着の検討を行っている。	排泄に関しては比較的自立しており、半数程度の利用者は自分でトイレに行っている。排泄の記録を参考にしたり、利用者の動きを見たりして声掛けを行い、紙パンツから厚手の布パンツへの切り替えを目標にしているケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事量の確認を行っている。また、便秘を促す体操を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の声掛けを行っている。断られた時は無理強いせず時間を置いたり翌日での対応を行っている。湯加減や人間関係に考慮して声掛けを行っている。	毎日入浴ができるので、声掛けして断られた時は無理強いしないようにしている。楽しく入浴できるよう、ゆず湯、菖蒲湯などを季節に合わせて提供したり、人間関係を考慮して声掛けをしたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の習慣や睡眠パターンに合わせている。疲れやすい方など日中の臥床の声掛けを行っている。様子観察を行い眠れていない時は情報共有を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診の際、薬を処方時は薬の情報を確認している。薬の内容を理解した服薬支援をしている。服薬時には飲み込みの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者様の楽しみや役割をケアプランに反映させている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦の中、現在は自粛しているが、個々の希望を聞き取り、外出支援につなげている。	コロナ禍のため現在は病院の受診、散歩が主な外出機会となっているが、以前はフラワーパーク、公園、喫茶店、初詣、花見、紅葉狩り等いろいろな外出支援を行っていた。	外出の機会が減っているので、施設内で可能な範囲で利用者の体力維持や気分転換に有効な支援を検討されたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ渦の中、現在は自粛しているが、本人の買い物をする際は、可能な限り自分で支払いしていただき見守りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ渦にて窓越し面会等や電話の取次ぎを行っている。往復はがきにてご家族と手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファを置き、音楽を流すなど、くつろげる空間作りに努めている。	毎月利用者と職員が協力してリビングの様式替えを行い、季節を身近に感じられるようにしている。有線放送で昔の歌、ピアノ曲、正月には琴等を静かに流している。また、余暇時には職員がピアノを弾き、みんなで楽しく歌う等、寛げる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みコーナー・リビング・居室にくつろぐ場所があり、雑誌や新聞を用意している。好きなときに好きな場所で過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品や家具を持ち込んで頂く事で、落ち着ける空間作りにつなげている。	持ち込むものは他の利用者の迷惑にならない限り特に規制はしていない。ベッド、ダンス、ハンガーラック、時計、テレビ、写真等好みに合わせて持ち込んで今までの生活に近い居室空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分からなくなる方のために、トイレや居室の戸に表札を貼り、分かりやすくする工夫を行っている。		